

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500902		
法人名	有限会社池田介護サービス		
事業所名	グループホーム うらら		
所在地	大阪府池田市栄町10-9		
自己評価作成日	令和3年7月12日	評価結果市町村受理日	令和3年9月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和3年9月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の皆様と家族様が安心して任せられる住居作りを常に心がけており、業務についても、職員本位やルールを決めずに、その時々状況に合わせてながらケアの提供を行える様に日々入居者の皆様の変化を見逃さない職場環境作りを行っております。何事も決めつけず、気付き力を職員全員が意識と自覚を持てる様な方針で頑張っております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は家政婦紹介所からスタートし良質な介護サービスの提供により長く地域に貢献し信頼を得てきた。事業所は5階建て自社ビルの2階に平成16年(1ユニット8名定員)に開設され、市役所・商店街や私鉄駅から至近距離に在って利便性も良く、屋上庭園に菜園があり、日常的に利用者は開放感や季節感を満喫している。コロナ禍ではあるが細心の注意を払いながら、近隣の散歩や家族との面会、月2回の音楽ボランティアは続行しており、「ふつ々の暮らし」の継続に全職員で努めている。就任1年余の新ホーム長(管理者)は、新体制の整備に意欲的に取り組んでおり、毎月の「うらら便り」は写真や近況報告などの工夫により、利用者の様子が良くわかると家族にも好評である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念に基づき、日々問題点の汲み取りと改善を繰り返しながら、事業所目標に近づけるように意識と指導を行っています。	企業理念「ふれあい互恵-真心・助け合い・ふれあい」と事業所理念「皆様の笑顔で一杯に」をパンフレットやホームページ・フロアにて掲示している。職員はミーティングや申し送りを通して常に確認し支援に生かす様心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ以前は地域で行われる、夏祭り、運動会に利用者の方々に参加をしておりましたが、現在イベント類は中止の為、参加出来ない状況です。イベント再開時は以前同様参加するつもりでいます。	法人経営者(当自社ビル3・4階に居住)が自治会に加入し役員活動も続けており、地域に根ざした深い交流が出来ていた。コロナ禍が収束次第、以前のように地域の祭りや運動会に参加、中学校の福祉教室やボランティアの受け入れなど積極的に取り組みたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在コロナウイルスの関係で地域の方々への支援等は行っておりませんが、訪問介護部門を通じてサービスを行いながらの支援を行っています。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年に入りコロナウイルスの影響と緊急事態宣言に伴い、運営推進会議を中止しているため、意見やサービス向上に繋がる成果はありません。	従来は自治会長・近隣住民・地域包括支援センター職員・家族らの参加を得て定期的に会議を開催していたが、コロナ禍により書面開催に代えている。議事録は管理者が参加メンバーに直接届けている。管理者は会議の重要性を十分認識しており、内容や議事録の様式についても改善していきたいとしている。	運営推進会議の会議内容や施設の現状をまとめた議事録は参加メンバー以外にも全家族へ配布(郵送やメール)し多くの家族の参加を促す取り組みを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	FAX等で送られてくる書類をファイリングしながら必要に応じた対応を行っています。	市役所の高齢者政策推進室の地域支援課とは頻りにメールやFAXで連絡を取り合っており、コロナ対策のため直接訪問し相談・報告をする機会も多い。グループホーム連絡会は開催を休止している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的な虐待行為に付いては正しく理解した上で虐待に繋がらないケアを統一して行っている。	「身体拘束適正化の指針」を整備し適正化委員会(3ヶ月毎)を開催、年2回以上の職員研修・新人研修などで職員へ身体拘束の弊害について周知徹底を図り、現在身体拘束の事例はないがベッドでのセンサーは2名が利用している。玄関は防犯上オートロックであるが閉鎖感を軽減するため、屋上庭園での日光浴で気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在コロナの影響で学ぶ機会がありませんが、以前学んだ事柄や書籍を利用して、職場内での虐待行為が起らないように注意しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在コロナの影響で学ぶ機会がありませんが、以前学んだ事や書籍を活用して、出来る支援を考え提案しながら利用者への支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新体制になってから契約、解約等の事柄は発生しておりませんが、介護報酬改定時は、書面と電話にてご理解できる様な十分な説明を行っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現体制になってからはコロナウイルスの関係でご家族様からの意見等は聞く機会が無く、対応出来ていませんが、入居者の方の意見に対して可能なことは行うようにしています。	家族が一番知りたいとする利用者の日常生活を、毎月往診情報と共に分かり易い言葉で写真入りの「うらら便り」として送付し好評を得ている。後日に電話で話し合うなど、家族が意見を言い易い環境作りに取り組んでいる。今後はブログなどを活用してホームでの暮らしぶりを発信して行きたいとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングや相談があった場合は、迅速に判断して、反映できる事は対応し、不可の場合は提案した職員に口頭で回答するようにしています。	月一回の職員会議での提案や意見は申し送りと議事録で欠席者も共有している。個別面談は様子を見ながら随時行っている。日常でも意見などは気軽に出せる雰囲気である。最近では「散歩日の変更や来客用スリッパを新しくしてほしい」などが提案され実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善を随時行いながら、職場環境の改善と不平不満にならない様に、職場全体が平等に勤務出来る体制作りを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在内部、外部研修等がコロナウイルスの影響で受ける事が出来ない状況ですが、職員と職場全体がスキルUP出来るように気づいた事柄を個々に指導しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在コロナウイルスの関係で同業者の方との交流する機会は有りませんが、今回のコロナウイルスワクチン接種に付いて、同業者の方に相談を行い、有益な情報となったので、今後コロナが落ち着きましたら、訪問等の活動を行いたいと思っております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	基本姿勢は困っている事や不安等有る時は、何事も決めず、ケアを行いつつ改善を行う様にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	如何なる事柄も職場本位では行わず、家族様に相談や提案を行いながら業務をいっつつ、信頼関係を築いていけるようになっています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでは外部のサービスは施設負担もしくは家族負担になる為、十分な検討を行いながら、ご家族様と相談を行いながらの支援を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を行っている上で、1人1人が平等に暮らしながら、お互いを支え、協力できる関係を構築できる様に心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には常に協力して頂けるように、相談等をおこないつつ、信頼関係を構築出来る様な対応を心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の影響で小さい時の事を話される事が多く、その当時に住んでいた思い出を大切に出来るように調べたりしながら、思い出を大切に出来る様には対応しています。	コロナ禍に在っても、緊急事態宣言の期間以外は感染対策を行った上での、家族との面会や長年交流のある音楽ボランティアによる月2回のレクレーションを楽しんでいる。家族側からの面会希望は少なく、iPadでのリモート面会を利用する家族もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の皆様の個性を理解して、共に協力して生活できるような支援を常に心掛けての対応をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	この部分に関しましては、難しい部分だと思えます。利用が無くなった方々からの相談や支援は現在無いので答える事はできません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループホーム内で可能な事は、出来る限り対応する様にはしています。どのような問題も職員本位にならない様な対応を心掛けています。	利用者の半数は意見を表出できるので、1対1でリラックスした時間(入浴時・居室内など)を大切に本人の意向や思いを把握している。生活日誌に記録して申し送りやミーティングで対応し介護計画作成に繋いでいる。職員は思い出話をヒントに出身地の郷土料理を「うららメニュー」として提供するなど、利用者寄り添った支援で喜ばれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話を通じて得た情報や家族様から得た情報などを参考にしながら、これまでの歩みの情報として把握しながら情報収集しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常にお一人お一人の情報を常に把握しながら、ケアや対応を決めずに、その時々合った対応を心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の意向をもとにして介護計画を作成し、介護者や主治医の意見を取り入れながらモニタリングを行い、必要に応じ作成、変更を行っている。	短期3ヶ月長期6ヶ月 で介護計画を見直している。医師・看護師・訪問マッサージ師からの所見を参考に管理者やケアマネジャーらとチームで検討している。身体変化時には随時見直しを行う。家族とは日頃から「うらら便り」にて往診記録など送り、些細な事でも電話で報告・相談を行っているため、本人・家族の意向も十分に反映できている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	改善したケアに対しては、常にPDCAサイクルを基本として、得た情報に沿って実践にて対応して行きながら常に改善を心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に柔軟な対応を心掛けています。その時々適したサービス提供ができる様な対応を心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナウイルスの関係で地域資源の活用が出来ない状況下ですが、地域活動にて参加出来る事がある場合は、常に協力参加出来るような体制を心掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医には常に状況報告を行いながら、家族様との連携をとりながら適切な医療が受けられる様な対応を心掛けております。	8名中7名は協力医療機関の医師(クリニック)の月2回の訪問診療、1名は従来のかかりつけ医の月1回の訪問診療、希望者が歯科医の月1-2回の訪問診療を受けている。他の専科は、必要に応じてかかりつけ医の指示で、管理者が同行の受診体制である。かかりつけ医とのオンコール体制は、看護師との連携もあり、事業所・家族にとって共に心強いものとなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当グループホームには常勤となる看護師は常駐していない為、受診時の看護師に相談を常に行う様に心掛けております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に付きましては、常に迅速に対応できる環境作りを心掛けております情報交換に付きましては、就任後に一度入退院をされたのみなので、関係性の構築は出来ていません。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様と医療関係者と協力を行いながら、終末期の対応を行っております。3月には1名の入居者の方の看取りをおこなっております。その際には出来る範囲のケアを終始改善しながらおこないました。	重度化、終末期対応については、医療的処置を必要としないことを条件に、医師・家族と十分に話し合い、家族の意向に沿って対応している。近時に2名の看取りを行っている。医療連携体制はとっていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応はチャート表を作成して、全ての職員が対応できる様に周知しております。訓練に付きましては、現在行っておりますが、今後定期的に行っていける様に対応したいと思っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を行いながら、昼夜問わず避難出来る経路を全員で行える様に対策を行っております。	消防署の参加は得ていないが規定の訓練以外に、全員の体験のため3ヶ月に1回ミニ訓練を実施している。利用者の状態変化や、最新の避難情報を基に各種災害の対策マニュアルの見直しを検討中である。地域との協力体制については今後も課題とする。	各種災害対策の見直しの推進と、それに伴う訓練の実施を望む。加えて、避難後の生活とケアについての体験を行い、現存の備蓄・防災用品の過不足の検証に期待する。地域との協力体制についての努力に期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員本位にはならない様な声掛けや対応を行っております。一人の人間として、家族の一員と思いながら、事務的な対応ではなく、温かみの有る対応を心掛けております。	情報シートによる複数の情報でその人を良く知り、出来ないを補い、出来るを引き出して自尊心を取り戻す、決めつけないケアを常に考えながら対応したいと努めている。長年の経験からくる慣れ・狎れを常に注意し合うよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	基本的には自己決定出来るような対応や声掛けを常に行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはルールは決めず、常に改善していく姿勢での運営を行っており、その時々の入居者様のペースに応じた対応を心掛けております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に自己決定を優先しています。入居者様自身で選ばれた身だしなみ心掛けております。自己決定出来ない入居者様に対しては職員対応にて衣類を選んでの対応を行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は入居者の皆様と一緒に準備のお手伝いを行っていましたが、中核症状の進行に伴い混乱される場合が増えた為、現在は後片付け時に一部の入居者の方にお手伝いをして頂いております。	朝は定番を作り、昼は業者からの献立と食材で調理、夕は配食を湯煎で提供している。主業の好き嫌いについては、発注時(1ヶ月前)に変更を依頼している。イベントなどの中止で楽しみの機会が減少しているが、手作りでおはぎやスイートポテトなどおやつの工夫をしている。以前は、喫茶店でモーニングを楽しんでいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事量を提供しております。水分量につきましては、出来る限り工夫しながら摂取して頂くように心掛けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その方に応じた口腔ケアの対応を行っております。嗽が困難な入居者の方には液体はみがきを使用しての対応を行いながら、誤嚥性肺炎の予防を心掛けております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り自立支援を心掛けておりますが、中核症状の進行と共に難しくなった入居者の方にはその時の状況に応じた声掛けでの誘導や紙パンツ、パッド、おむつ等を使用して対応しています。	トイレで排泄、を目標に尿量や排泄パターン、その時の気分などを考慮して、声掛け・誘導・交換などを行っている。個別の排泄に関するデータを集めて、適切な排泄用品についての検討と改善を行い、自立支援に努めたいとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に関しては、決められたメニューの為、改善が難しい部分ではありますが、根菜類は積極的に召し上げて頂くような声掛けを行っております。水分摂取につきましても、出来る範囲内で多く摂取して頂く様に心掛けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に関しましては、職場本位での曜日と時間帯での対応にありますが、入浴時間に関しましては個々の意思を尊重して対応しております。	月・水・金の午後を入浴としているが、個々人の状態・希望に添って、無理なく柔軟に対応している。3名は湯船に入るが、車イスの5名はシャワー浴となっており、人手が有る時に2人介助で湯船に入るよう心掛けている。入浴剤も色々工夫しての楽しみを作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る範囲内で入居者の個々の状況に合わせた安眠を提供しておりますが、眠りの浅い方、早くに起床される方がおられますが、その日状況に応じた声掛けや対応を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しましては処方箋をファイリングして職員全員が確認できる様に対応しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の個々の意見を尊重して、実現できる事は少しでも実現出来るように心掛けております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本のご家族様以外での外出行為は行っておりませんが、散歩として一部の入居者様以外は毎日短時間ですが、近隣を散歩しています。	コロナ禍以前は、ごく近い駅前広場や商店街に出かけていた。緊急宣言中以外は、散歩を試みることもある。屋上庭園があり、季節の陽と風の変化を感じ、菜園の作物の様子を楽しむ大事なひと時となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は入居者様のご持参している時期があり、お店にて嗜好品の購入を行っていましたが、現在はコロナウイルスの影響もあり、ご家族様に依頼して購入してきていただく対応を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的には制限等はありませんので、電話や手紙が有った場合は、入居者の方の希望に沿った対応を行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には入居者の皆様に応じた温度調整、明るさを心掛けております。他に混乱がない様に各居室やトイレ等の扉に表示を分かりやすく設置しております。	出来る限りゆっくりと寛げる環境を整えるよう、季節感のある壁面の飾り、ソファの配置、目の届く範囲に観葉植物などに配慮したりビングである。空気清浄機2台(1台はジアイノ)を設置し、日に4回消毒を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る範囲内で自由に過ごせる様な住環境の提供を意識しながら、その時々に合わせて工夫を心掛けております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状、入居された状態から職員対応にて衣類の整理整頓を行っております。ご家族様の来所も正直多いわけでは無いので、出来る範囲内で工夫しております。	快適で使いやすく、危険でないことを基本に調度品や写真などで、その人らしい暮らしの場を整えている。現況では症状による設えの差はないが、室内の整理整頓には、清掃専任者(午前・午後に一人ずつ)が注意深く当たっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	基本的に入居者の方々を見ていながら、問題等点が発生した時に、迅速に対応しながら改善しています。		